

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年(2025年)3月25日
札幌市立新琴似西小学校

1 今年度の重点目標

- あかるく…豊かな情操を育て(豊かな心)
- かしこく…日々の学習を着実に成就し(学習成就)
- たくましく…健康で粘り強く働く心身を育て(健康生活)
- なかよく…学級 学校 家庭 社会の一員としてみんなとともに向上する(社会連帯)

2 本年度の経営方針

- 「すべての子 すべての保護者 すべての教職員が『幸せ』を感じる新琴似西小学校」
- 豊かな心を育む(豊かな心育成プラン)
 - 健やかな体を育む(健やかな体育成プラン)
 - 確かな学ぶ力を育む(学ぶ力育成プラン)
 - 学校・家庭・地域と連携する(信頼される学校創造プラン)

3 自己評価結果に対する学校関係者評価 評価 【A】4~3.1 【B】3.0~2.1 【C】2.0~1.1 【D】1.0~

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		教職員	保護者	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
豊かな心育成プラン	自分や他の人を大切にする豊かな心を育てるとともに、挨拶の習慣化をはじめとして、集団の中で望ましい生活習慣づくりを推進する。	B	B	A	A
	子どもたちの自己肯定感を高め、友達と仲良く協力し、学習や活動に取り組むことができるよう努める。	B	A	A	B
	子どもたちが運動会や学習発表会等の学校行事、委員会などの活動に楽しく意欲的に取り組むことができるように教育活動の充実を図る。	A	A	A	A
	【改善の方策】 ○学校のルールについて見直し 廊下の歩き方、5分休みの在り方、挨拶などはさらに力を入れていく。『NEXT 西小』で示されている学校の約束を全校でしっかりと守っていく。今後も全職員で共有理解を図り、学年の垣根を越えて指導していく。特に廊下の歩き方や挨拶などは、悪い時だけでなく良い時にも学年関係なく声をかけて育てていく。 ○学習発表会の位置づけの確認 学習発表会の提案のねらいの1つとして挙げた『日常の学習成果を発揮する場として、表現力を育む。』を意識し、教育課程に沿った発表内容にすることで、指導時数の使い過ぎを防ぐ。普段から少しずつ積み重ねていくことで、学習の成果を発揮できるような内容で取り組んでいく。 ○委員会活動のさらなる充実 今年度の委員会は、どの委員会も子どもたちの意見を生かした活動をしていた。コロナ禍で一旦途切れてしまった委員会の活動が、やっとまた、子どもたちが思いをもって主体的に活動するようになってきた。委員会の看板(名前)を変えることよりも、もう少し活動の引き出しにいろいろなアイデアを入れていってもいいのではないかと。 ○遠足の実施 コロナ禍で長く実施のなかった遠足を再開する。ブロック学年で親睦を深める目的で行う。				
	【学校関係者評価者による意見】 ・上記に賛同いたします。 ・大人の関わり方として、まず私達が模範となる姿を見せ続けることが大切だと感じています。 ・自己肯定感の向上について、子ども目線での傾聴と、結果ではなく過程をよく見て賞賛する等の積み重ねなど、周囲の大人の影響が大きいと感じており、自分自身も心掛けています。				

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		教職員	保護者	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
健やかな体育成プラン	子どもたちが積極的に体を動かしたり、運動したりすることができるような取組および環境整備を行う。	A	A	A	A
	子どもたちが、食育や健康、命の大切さに関心をもつなど、望ましい生活習慣づくりを推進する。	B	A	A	B
	【改善の方策】 ○鉄棒・マット・跳び箱週間の取組みを継続していく。 重点週間の設置によって児童の運動機会の増加、授業前授業後の準備と片付けの時間の効率化、評価の情報共有がはかられた。 ○全国運動能力調査の結果からも、運動機会の充実を図っていくことが必須となる。具体的な案としては下記に記載した通り。 【常時設置による運動機会のさらなる増加】 ドッジボールコート常設・ストラックアウトの設置・北海道1周マラソン・ラダーコーナーの設置・柔軟体操の取組み 【体育の学習での充実を提案】 なわとびの取組み・スポーツテストで取り扱う内容(反復横跳び・上体起こし・シャトルラン等)を日常の授業に取り入れていく。 【イベントでの運動機能の向上】				

	全校鬼ごっこ・大縄跳び大会を企画し、児童が自ら楽しめる運動機会を充実させる。
	【学校関係者評価者による意見】 ・上記に賛同いたします。 ・2つ目の「子どもたちが、食育や健康、命の大切さに関心をもつなど、望ましい生活習慣づくりを推進する。」についても改善策があれば、運動能力や耐力の向上と身体の成長の両方の面でサポートができると感じます。

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		教職員	保護者	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学ぶ力育成プラン	子どもたちが授業に楽しんで参加し、学習内容を理解し、学習の仕方を身に付けたりすることができるように学習支援の充実を図る。	A	A	A	A
	子どもたちが、自分から進んで学習や活動に取り組めるような教育を実践する。(家庭学習、自分で決める学習を含む)	B	B	A	B
	【改善の方策】 ○授業改善で基礎学力の充実を 必要に応じた重点的な指導と指導方法の工夫で、学習内容を確実に定着させる。そのために前の時間ふりかえりを行い、既習を生かし見直しをもつ時間を設置するとともに、AAR サイクル（見直し-行動-振り返り）とセルフチェック（課題が自分事になっているか？・自己選択できるようにするには？）の手法を用いて授業の充実を目指す。また、一人一人の進度や学習別の到達度を可視化して、学びの進捗を支援する。 ○大切にされている実感をもてる学習 異なる考えからが組み合わせたり、より良い学びを生み出すことができるようにする。授業の中で多様な考えが生まれる場を作り、それぞれの考えが尊重されて一人一人の良い点、個性・可能性が価値づけられ、自分が大切にされている実感をもてるように授業を工夫していく。 ○自学の改善 家庭で行う「自分で進める学習」では自分で目標を決め・課題を明らかにして、見直しをもって粘り強く取り組む力を育てていく。そのために低学年から発達段階に応じたステップを設定、自分ですすめる学習の良さを感じられるように関わる。教育環境に現実的な差があるため、児童に任せきりにするのではなく、子どもが自身で自分の成長を自覚できるように丁寧な支援を継続する。				
	【学校関係者評価者による意見】 ・上記に賛同いたします。 ・「習い事の掛け持ちで忙しい。」「誘惑が多い。」等の理由から、自学の習慣づけの難しさを感じています。 ・自己肯定感が向上するような関わり方と、優先順位の大切さを家庭でも粘り強く伝えていこうと思います。				

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		教職員	保護者	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
信頼される学校創造プラン	学校教職員、学年担任やその他の職員が連携し、幅広い目で子どもたちの様子を見て対応する。	A	A	A	A
	学級懇談、個人懇談、各種お便り、ホームページ等を通して、学校の様子が発信され、家庭・地域との連携を図る。	A	A	A	A
	様々な機会を通して学校と家庭や地域との信頼関係をつくり、開かれた学校づくりの推進を図る。	B	B	A	B
	緊急時における、学校全体の防災防犯体制を整備し、コロナ対策を含め、適切な対応を行う。	A	A	A	A
	【改善の方策】 ○安全管理・玄関の施錠について 玄関扉の老朽化によるオートロック誤作動、玄関の空きっぱなしが常態化していることについては問題視している。玄関の施錠や来客・保護者の出入りに関しては、PTA タグを改良して氏名が表面で確認できるようにする。来校時に提示していただくように周知していく。 ○廊下の常設物品について 廊下に通年で置いてある備品があり、日ごろから廊下の安全確保の確認が必要である。今年度は、今の状態で指導してきた経緯もあると思うので、可能な限り、撤去をして、新年度からは、基本は常設しない、という約束で運用する。 ○公文書の保管について 児童の自習室に公文書ファイル棚がある問題。来年度以降継続していく環境整備日の中に作業計画を盛り込んでいく。 ○その他 使用しない学年教材園について。雑草が伸び放題で見栄えが非常に悪かった。使用する学年に明け渡すなどして、有効に活用する。				
	【学校関係者評価者による意見】 ・上記に賛同いたします。 ・学校行事があるたびに、自家用車の駐車について学校側から注意があるにもかかわらず、一向に改善されていないように感じます。				